



追悼

太田義弘先生という研究教育者との出会い

中村 佐織
京都府立大学

太田義弘先生は、2024年9月6日、日本時間の17時30分頃、アメリカオレゴン市の家族宅でご逝去され、天国に召されました。

近年は、2019年から、アメリカの二女宅と滋賀の自宅の二重生活をされていました。もちろん、この間も先生が中心となって立ち上げたエコシステム研究会にはオンラインで参加し、その成果としてエコシステム研究会誌『ソーシャルワーク支援研究 創刊号』に「こだわりのソーシャルワーク研究の再編一定義と概念考察の改訂」¹を執筆されていました。そして、2024年の3月、太田先生が日本にいられた時にお会いし、3月には「卒寿のパーティをしましょう」とお伝えしておりましたので、とても残念です。

太田先生との出会いは、北星学園大学入学の時です。とてもおしゃれな先生でしたが、講義は非常に難しく大学の先生とは、このようなものなのかと思ったのを覚えています。また敬虔なクリスチャンだったので、お酒もたばこもたしなまれない先生でした。ただ、北星学園大学時代は、テニスを休みの日によくされていたのを覚えています。またその後、大阪府立大学（現大阪公立大学）、龍谷大学、関西福祉科学大で研究や教育を行っておられました。この間、学部長なども経験され、大阪府立大学、関西福祉科学大学では名誉教授の称号をうけた後も、さらに活躍されておりました。

そもそも太田先生は、関西学院大学で竹内愛二先生のもとで指導を受け、北海道にいられました。こうした中で、独自にソーシャルワーク研究を深められ、その概念や定義などを整理し、日本におけるソーシャルワークの基盤を形成されたと思います。とくにエコシステム視座からの非常に複雑な生活理解には、社会福祉学分野でまだなじみのないコンピュータ活用の必要性を説きました。その結果、2005年には『ソーシャルワークと生活支援方法のトレーニング-利用者参加へのコンピュータ支援』²を出版しました。当時のソーシャルワークでは、英米文献を翻訳することが流行っていたと思います。しかし、太田先生は、オリジナルにこだわり研究を続けておりました。そして先生は、当時からこのエコシステム視座の理解をする専門家がスペシャリストでありジェネラルソーシャルワーカーであるとおっしゃっていました。つまりソーシャルワークの基盤（価値・知識・方策・方法）を持つことによって、どの分野でもソーシャルワーカーの専門性が発揮できるということです。

さらに、近年、太田先生が焦点をあてた研究は、それぞれの実践領域でエコシステム視座から支援を展開するためのコンピュータ開発でした。研究会ではeスキャナーと称し、実践での支援のために研究を進めてきています。常に太田先生は、「ソーシャルワークが研究のための研究ではいけない。実践支援に提供できてはじめて研究として成立する。」とおっしゃっていました。私は、このことを肝に銘じて研究教育の礎を築いていきたいと思っています。

どうぞ安らかな旅立ちになりますように心からお祈り申し上げます。

-
- 1 太田義弘 (2024) 「こだわりのソーシャルワーク研究への再編-定義と概念考察の改訂」『ソーシャルワーク支援研究』創刊号 エコシステム研究会 3-18.
 - 2 太田義弘・中村佐織・石倉宏和編 (1992) 『ソーシャルワークと生活支援方法のトレーニング』(はじめに、第1章1・2、第2章4(1)、第4章2・3、第6章1執筆)中央法規